

氏名	星 文彦	部署	理学療法学科	職名	教授
研究分野	中枢神経障害理学療法、発達運動学、姿勢制御				
学位	博士(障害科学)、教育学修士				
学歴	1977年 東京都立府中リハビリテーション学院、1988年明星大学人文学部心理教育学科、1994年北海道教育大学大学院修士課程教育学研究科、2003年東北大学大学院医学研究科後期課程障害科学専攻				
経歴	1977年東京都立府中病院・リハビリテーション科・主事、1980年東北大学医学部附属病院鳴子分院・理学療法部・文部技官、1983年北海道大学医療技術短期大学部・理学療法学科・助手、1992年医療法人勉仁会東小樽病院・理学診療科・科長、1992年北海道大学医療技術短期大学部・理学療法学科・非常勤講師(1994年3月まで)、1994年北海道大学医療技術短期大学部・理学療法学科・助手、1997年北海道大学医療技術短期大学部・理学療法学科・助教授、1999年東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科・教授、2003年東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科健康福祉専攻・教授、2007年埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科・教授、2007年東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科・非常勤講師(2011年まで) 2009年埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻・教授、2011年埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科・学科長、2015年埼玉県立大学 地域産学連携センター・所長、2015年埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科保健医療福祉学専攻(後期課程)・教授				
所属学会(役職)	日本リハビリテーション医学会、日本理学療法士協会(基礎学会、神経学会)、JSEK(評議員)、ISEK、ISPGR、専門リハビリテーション研究会(監事)、全国大学理学療法教育研究会(評議員)				

【2018年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	理学療法概論第7版、第5章、理学療法の対象と治療手段、	共著	医歯薬出版、pP93-145	奈良勲編著、	2019.3
(2) 論文					
1	Slower Reorientation of Trunk for Reactive Turning while Walking in Hemiparesis Stroke Patients	共著	J. Motor Behavior ; Published online:	Takahito Nakamura, Takahiro Higuchi, Toyo Kikumoto, Takanori Takeda, Hideyuki Tashiro & Fumihiko Hoshi	2019.1
2	Quantification of trunk segmental coordination and head stability in laterally unstable sitting identifies aging ad cerebellar ataxia	共著	Clinical Biomechanics 63 127-133.	Koshiro Haruyama, Kenji Kasai, Ryouhei Makino, Fumihiko Hoshi, Ken Nishihara	2019.3
(3) 学会発表					
1	身体活動量計を用いた行動変容の調査	共著	回復リハビリテーション 病棟協会 第33回研究 大会 千葉	○久保 周平、、星文 彦	2019.2.21-22、
2	表面筋電図周波数解析を用いた脳卒中者の随意運動評価に関する研究	共著	第27回埼玉県理学療法 学会、さいたま市、	○星文彦、菊本東 陽、大沼亮、武田尊 徳、中村高仁	2019.1.13
3	Timed Up & Go Test の動作パターンの違いからみたバランス能力の差	共著	第23回日本基礎理学療法 学会学術大会 京都	○筒井隆裕、田澤里 美、石井琴美、村山 奈菜香、星文彦	2018.12.15-16
4	認知症者の歩行中方向転換動作における姿勢制御に関する基礎的研究	共著	第19回日本早期認知症 学会学術大会 松江	○星 文彦、中村高 仁、菊本東陽、武田 尊徳、大沼亮、古川 美盛	2018.10.6-7
(4) その他					
1	該当なし				
2					
3					

2. 競争的資金等の研究			
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	科学研究費補助金研究(基礎研究(C)(一般))	歩行中の方向転換課題における認知症者の予期的姿勢制御障害に関する研究・研究代表者	2018-2020
3. 教育業績			
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
(1) 講義			
1	理学療法学概論	4月～6月	理学療法について、障害の捉え方、定義、実践の紹介しながら、理解を深める様に教授した。手法として、映画鑑賞、KJ法によるグループワーク、レポート課題なども用いた。
2	運動学入門	6月～7月	形態計測、関節可動域計測、姿勢の描写、動作観察、ハンドリングについて演習と交え教授した。
3	神経障害理学療法学	後期	中枢神経疾患に対する理学療法の一般的理論の変遷と脳卒中回復期及び失調症に対するアプローチの理論を教授した。
4	発達障害理学療法学	前期	小児疾患に対する理学療法における発達のアプローチの理論を教授した。
5	運動制御と運動学習	11月～12月	運動制御理論、特に姿勢制御について研究文献抄読を通して議論した。
6	社会構想論	2月	大学の地域産学連携センターの立場から、社会貢献事業について解説した。
7	緩和ケア総論	10月	緩和ケアにおけるリハビリテーションの概念について解説した。
8	運動解析学特論	前期	運動解析学の理論を運動学、運動力学、生体活動の観点から解説をした。
9	理学療法症候障害論	前期	疾病の症候学に基づく障害構造についてシステム論の視点から解説した。
(2) 演習			
1	神経障害理学療法学実践テュトリアル	前期	脳卒中に関するペーパーptで評価と治療についてグループワークを行った。
2	発達障害理学療法学実践テュトリアル	後期	小児疾患(脳性麻痺、筋ジストロフィー)に関するペーパーptで評価と治療についてグループワークを行った。
3	リハビリテーション学演習	後期	学生の研究テーマに沿って、運動解析学の手法を解説演習をした。
4	理学療法症候障害論演習	前期	疾病の症候学と機能障害の関係を基盤に文献抄読を通して理学療法評価学の理解を深めた。
(3) 実習			
1	神経診断学実習	後期	神経症候学に基づき、理学療法に関連する検査について運動麻痺や姿勢障害、不随運動等についてグループワークと実習を通して理解を深めた。
2	神経障害理学療法学実習	前期	脳卒中及び失調症に対する運動療法の実際を動画教材の視聴及び学生間で実習を行った。
3	発達障害理学療法学実習	前期	脳性麻痺に対する運動療法の実際を動画教材の視聴及び学生間で実習を行った。
4	臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	前期後期	検査測定実習について指導した。理学療法評価について、施設訪問を通して指導した。理学療法の総合的実践を病院へ訪問を通して指導した。
5	IPW実習	後期	1グループ担当(国立病院機構東埼玉病院)
(4) 論文指導			
1	学部卒業論文	2018.4-2019.3	3名
(5) その他			
1	該当なし		

4. 社会貢献活動			
(1) 講演会、研修会等の講師			
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ
1	平成30年度臨床実習指導者講習会	埼玉県立大学理学療法学科	バランスとハンドリング
2	生涯運動発達と老化	放送大学埼玉学習センター	講義
3	さいたま市シニアユニバーシティ大宮中央校講演会	さいたま市シニアユニバーシティ大宮中央校	講演
4	姿勢制御から考える理学療法評価	第27回埼玉県理学療法学会大宮ソニックシティ	基調講演
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等			
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	越谷市生涯学習審議会	副会長	2019/6/30まで
2	埼玉県健康関連サービス産業会議	委員	2019/3/31まで
3	社会保険診療報酬支払基金埼玉支部幹事会	幹事	2020/8/31まで
4	こども大学こしがや・まつぶし	学長	2019/3/31まで
5	大学基準協会審査委員	主査	2019/3/31まで
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	東武よみうり	人生100年時代に備えて、床からの立ち上がり動作パターンで健康チェック	2019. 2. 18
5. 学内運営(委員会委員)			
1	地域産学連携委員会		
2	教育研究審議会		
3	研究推進委員会		
4	教員人事委員会		
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		